

「らしさ」でつくる**ドラマ**の魅力

今、テレビ東京・BS日本はドラマがおもしろいです。これぞドラマといった正統派の作品から、大胆な発想で「らしさ」あふれる驚きの作品まで、「テレ東」ドラマを、4つのキーワードからご紹介します。

KEYWORD-3

スペシャル ドラマ

ミステリー界の巨匠作品を次々と映像化。他局に先がけて全編ハイビジョン制作に挑むなど、正統派な作品づくりの中にも、チャレンジ精神が光ります。

KEYWORD-1

深夜

自由すぎておもしろい！
挑戦的で挑発的な、可能性の宝庫です。

『ドラマ24』は唯一の連続ドラマ枠だった時期も長く、テレビ東京のドラマ史を語る上で、欠かせない“名物枠”。人気絶頂のAKB48主演『マジすか学園1～3』や、鬼才・福田雄一による『勇者ヨシヒコと魔王の城』（シリーズ化され、第3弾『勇者ヨシヒコと導かれし七人』が放送中。詳しくは10ページ）など常に話題作を提供します。

『孤独のグルメ』 Season1～5（'12～'15）

輸入雑貨商を営む男が、一人で食事をする姿を淡々と描く、まさにテレ東らしさがあふれる異色作。「夜食テロ」なる言葉も生まれた大人気シリーズは、松重豊主演で、現在Season5まで放送された。

©テレビ東京



KEYWORD-2

ファミリー



キーワード テレビ東京・BSジャ

シニア世代から孫世代まで、3世代でテレビを囲んで見る。古き良きファミリードラマも、テレビ東京の得意な分野です。

金曜8時のドラマ『三匹のおっさん～正義の味方、見参!!～』は、シルバーエイジを主人公にした、ちょっとめずらしい連続ドラマ。金曜の夜8時という、ファミリーが家で過ごす時間とぴったりハマリ、パート2がつくられる人気作となりました。また『釣りバカ日誌 新入社員 浜崎伝助』は、おなじみの国民的映画をまさかの連続ドラマ化。さらに映画版ハマちゃんの西田敏行さんをドラマ版のスーさんに配役するなど、サプライズてんこもりとなりました。

『三匹のおっさん』（'14, '15）

還暦を迎えた3人の元悪ガキが私設自警団を結成し、世の中の“悪”を成敗する勸善懲惡ストーリー。

©テレビ東京・ホリプロ



MIDNIGHT



FAMILY

テレビ東京 六本木3丁目移転プロジェクト ドラマスペシャル

11月7日の新本社移転を記念して、3本のミステリードラマが今秋、3週連続放送されました。クオリティー、キャストともにこれまでにないミステリー大型企画となりました。



©テレビ東京・テレパック

『模倣犯』(16)

宮部みゆき原作。主演の中谷美紀は、テレビ東京初主演。前後編に分けて2夜連続放送された。



©テレビ東京

『望郷』(16)

湊かなえの同題短編集から珠玉の3編をオムニバスドラマ化。広末涼子、伊藤淳史、濱田岳が主演。



©テレビ東京

『巨悪は眠らせない 特捜検事の逆襲』(16)

原作は、真山仁「売国」。玉木宏、仲代達矢が主演した重量感のある作品。

で語る! パンのドラマ

KEYWORD-4

時代劇

最近では少なくなってしまう時代劇も、テレビ東京・BSジャパンでは、ご視聴いただけます。

「東京12チャンネルの社名にちなんで、1月2日に12時間のドラマを放送する」という、他に類を見ない大胆な企画で注目を集めた「新春ワイド時代劇」をはじめ、時代劇は古くから、今にいたるまでテレビ東京・BSジャパンの看板番組として、愛され続けています。



金曜8時のドラマ『石川五右衛門』

ただいまテレビ東京にて絶賛放送中!! → 番組の詳細は、9ページ



火曜スペシャル『人形佐七捕物帳』

ただいまBSジャパンにて絶賛放送中!! → 番組の詳細は、12ページ



SPECIAL



SAMURAI



ドラマ制作部にききました! テレビ東京ドラマの魅力

テレビ東京のドラマ制作部は少数精鋭。

日夜ドラマづくりに挑む部員たちにアンケートを行い、魅力や、らしい体験談を伺いました。

誰もやらないことを
やろうと思ってる

Q 影響を受けたテレビ東京の ドラマをおしえてください

- 浅田次郎ドラマスペシャル『角筈にて』(99年)『天国までの百マイル』(01年)『ラブ・レター』(03年)、山田太一ドラマスペシャル『小さな駅で降りる』(00年)…良質な大人のドラマであり、数々の賞を受賞し、テレビ東京のドラマのクオリティーの高さを示した作品であるため。
- 山田太一ドラマスペシャル『本当と嘘とテキーラ』(08年)…山田さんの手書き原稿はいまだに大切に保管しています。とにかく台詞がおもしろく、また松原信吾監督の演出もとても勉強になった。現場でひたすら駆けずり回ったのは良い思い出。
- 『孤独のグルメ』(12年)…おじさんがご飯を食べているだけでドラマになるんだ!という衝撃を受けました。その後のドラマづくりに影響を受けました。
- 『壬生義士伝～新選組でいちばん強かった男～』(02年)…10時間、緩まずに見せ切っていた。泣けた。

Q ドラマをつくる上での こだわりをおしえてください

- しっかりした脚本にしてから、監督や現場スタッフ、俳優に託すこと。
- 「一視聴者として自分が見たくなる作品を制作する」ことを心がけています。
- 常に視聴者に喜んでいただける「サプライズ」要素を盛り込むこと。

Q ズバリ、テレビ東京のドラマの魅力とは？

- 懐かしい感じでしょうか。「子供のころ、こういうドラマ見た」と、うちの母が言っていました（笑）。また、背伸びせずに汗をかいてやっているところかと。
- はじめに役者ありきで企画を決める無難なドラマになるようなつくり方が少なく、企画中心でキャスティングが進むので、独自性が強い作品が生まれやすいこと。
- 「エッジの効いた」埋没しないグリラ的な作品。

「泥臭さ」が魅力
やっぱり

Q ドラマ制作における、最大の失敗は？

- エキストラさんの人数が足りず、人数合わせで遠目にいる通行人として自ら出演したところカット割りが変わり、うっかり主演と一緒に長々と出演してしまった。
- 連続ドラマの顔合わせのキャスト挨拶の際に、なんとトメ※とトメ前※にあたる大御所俳優のお二人を紹介し忘れました。会場全体が一瞬凍りつきました。
- クランクイン直前に、息抜きで行った草野球で骨折。そして16日間の入院。

※トメ…キャストロールの最後に表示される大物俳優

※トメ前…キャストロールの最後から2番目に表示される、トメに準ずる大物俳優

Q 今後の野望をおしえてください

- 他局で主役をやったことがない方を主役として抜擢したい。俳優ではない方を起用してのドラマづくり。
- スペシャルドラマまたは連続ドラマで、視聴率20%を超える！
- 世界を相手に「外国と合作ドラマ」や「新しいホームドラマ」、「時代劇」をつくりたい。
- 現在は少ない女性プロデューサーを増やし、女性だけのスタッフで“危険”なドラマをつくってみたい。
- ダメ人間ばかりが集まったホームドラマをつくりたい。長年にわたって成長したりしなかったりする家族を描き、テレビ東京の看板シリーズにしたい。

QUESTIONS





テレビ東京らしい「エッジが効いた」企画で勝負

テレビ東京のドラマの魅力は、いかにして生みだされてきたのでしょうか。これまでのドラマ制作の歩みや、今後の展望を岡部ドラマ制作部長に伺いました。

テレビ東京のドラマの特長を教えてください。

テレビ東京はドラマ制作において後発の存在であり、番組を放送する系列局も決して多くありません。そこで他局の既存のドラマから良さを学びつつも、チャレンジ精神を持ち、原作の選定やキャスティングなどエッジが効いた企画を意識してドラマを制作しています。もちろん、より多くの視聴者に見ていただけるようマーケティングを行うなど力を尽くしていますが、必ずしもその結果だけにとらわれず、「**制作者自身が見たいと思う作品をつくる**」ことが**基本の姿勢**。最近ではシルバーエイジを主人公にした『三匹のおっさん～正義の味方、見参!!～』や、大ヒット映画をリメイクした『釣りバカ日誌 新入社員 浜崎伝助』など、これまでのゴールデンタイムのドラマの常識

を覆すような作品に挑戦してきました。

BSジャパンのドラマ制作も同様で、視聴者層が限られていて地上波では放送が難しくなっている時代劇を連続ドラマで復活させるなど、常にチャレンジングな取り組みを行っていると思います。

最近では連続ドラマ枠に注目が集まっています。

『ドラマ24』以前にも連続ドラマ枠がありました。軌道に乗せることができず、やむなく終了となりました。だからこそ「連続ドラマ枠を定着させたい」という思いが強く、2005年に『ドラマ24』を立ち上げました。とはいえ、当時は連続ドラマを制作するノウハウはほとんどなく、キャスティングや原作の獲得などすべてが手探り状態。第一弾の『嬢王』は深夜帯としては大ヒットとな



る平均視聴率5.8%を記録しましたが、その後はヒット作品がなかなか生まれず苦しい時期が続きました。放送開始が迫る中、手配ミスにより一から企画を考え直さなければならなくなったこともあります。

現在も試行錯誤を続けていますが、「とんがったドラマ」という軸をぶらさずにつくり続けた結果、『ドラマ24』に対する認知度は確実に高まっています。スタート時は「テレビ東京でドラマを放送しているの?」といった反応でしたが、今では視聴者から「**テレビ東京のドラマは侮れない**」と言っただけのこと。また、制作会社や監督、原作者、役者の方々にも認知が広まったことで、「ぜひ『ドラマ24』でやりたい」「参加したい」と自ら手を挙げていただけでも増えました。

2013年にはもう一つの連続ドラマ枠となる『金曜8時のドラマ』がスタートし、ファミリー層をターゲットにした作品で好評を博しています。今後は『ドラマ24』で平均視聴率5%、『金曜8時のドラマ』で平均視聴率10%を目指し、各作品をつくり込んでいきたいと思っています。

ドラマ制作における課題は何ですか。

今はまだ「テレビ東京のドラマ」を確立している段階であり、出演いただいたことがない役者さんがたくさんいます。より魅力的なキャスティングをするためにも、「このドラマなら挑戦したい」と思われる企画を生みだしていかなければなりません。エッジが効いた作品にこだわる一方で、視聴者が見たいと思うものをもっと拾い上げ、それを作品に反映させるノウハウを蓄積することも必要だと感じています。

また、ゴールデンタイムの連続ドラマが1枠のみであることも課題の一つです。今後は3枠まで増やせるようチャレンジしていきたいと思っています。そこでポイントとなるのが、視聴者層の幅を広げること。テレビ東京のドラマの視聴者は全体的に年齢層が高く、比較的男性が多くなっています。若者や30~40代の女性など、これまでカバーしていなかった視聴者にもアプローチしていかなければなりません。プロデューサー一人ひとりの能力アップを図りながら若手も積極的に起用し、制作体

制を強化していきたいと考えます。

今後のドラマ制作に対する意気込みをお聞かせください。

今年9月には「テレビ東京 六本木3丁目移転プロジェクト」と題し、大型企画となる3本のスペシャルドラマをお届けすることができました。2019年には開局55周年を迎えます。大型企画を再び実現できるよう、動きだしていきたいと思います。

近年は各局が動画配信サービスを活用するなど、さまざまな形でドラマを視聴できるようになりました。視聴の仕方が変化している今だからこそ、私たちは腰を据えて視聴してくれた皆さんに「**見て良かった**」と思っただけの作品を真剣につくり続けたい。その上で視聴率アップにこだわっていきます。そして『ドラマ24』や『金曜8時のドラマ』をテレビ東京の看板番組に育てていくことを目指します。



岡部 紳二

編成局次長 兼 ドラマ制作部長

1988年入社。人事部、ニュース報道部、編成部、情報バラエティー制作などを経て、2001年ドラマ制作部に異動。プロデューサーとして活躍しつつ、連続ドラマ枠『ドラマ24』や『金曜8時のドラマ』を立ち上げ、現在はドラマ制作部長を務める。

INTERVIEW

